

市長インタビュー

勝浦市長 猿田寿男

過疎と少子化対策に挑む

2015年11月26日 勝浦市役所にて

聞き手 **高橋 秀雄** 千葉県地方自治研究センター 副理事長

椎名 衛 千葉県地方自治研究センター 副理事長

佐藤 晴邦 千葉県地方自治研究センター 事務局長



勝浦市長

さる た ひさ お
猿田 寿男

1948(昭和23)年夷隅郡大多喜町生まれ、67歳。千葉県立大多喜高校、明治大学卒業後、千葉県庁に入職。市町村課長、知事室長、商工労働部長等を歴任。2011(平成23)年7月に勝浦市長に当選。

<勝浦市の位置と市域図>

勝浦市は、1955年(昭和30年)2月11日に勝浦町、興津町、上野村、総野村が合併して勝浦町が発足後、1958年(昭和33年)10月1日に勝浦町が市制施行し、千葉県内18番目の市として誕生しました。

勝浦市は、千葉県の南東部に位置し、都心から約75km圏内に位置しています。市域は黒潮の北上する太平洋岸に面し、海岸線は自然景観に富んでいます。市北西部は房総丘陵に属する海拔150~250mの丘陵性山地が広く分布し、平坦地の少ない地形です。

古くから漁業により栄え、カツオ・イセエビの水揚げ量は全国トップクラスです。また、美しい砂浜とリアス式海岸の織りなす風景は、勝浦を訪れる人々に深い感銘を与えています。



(高橋) 本日はお忙しいところ、時間をさいていただきありがとうございます。猿田市長は、本年7月2期目の当選を果たしましたが、市長2期目にあたり市政の重点課題とくに地域活性化、少子高齢化対策などを中心にお話を伺いたと思います。市長は県職員として豊富な行政経験をお持ちです。はじめに千葉県内における勝浦市の位置について伺います。

■千葉県は日本の縮図、勝浦市は観光・リゾートとしての位置づけ

(市長) 千葉県は日本の縮図といわれています。東京よりの千葉市以西の地域は、千葉県全体の三分の一の面積ですが、そこに人口の三分の二が集まっています。一方、県東部・南部の地域は、人口減少が進み、まさに、過密と過疎が同居しています。昔から、県東部・南部の地域は観光・リゾート地として位置づけられてきました。

勝浦市は房総半島の南東部、太平洋に面しており、県庁所在地である千葉市から南約60km、東京都心から75km圏内に位置します。市の北部は海拔150～250mの丘陵性山地が広く分布し、黒潮が北上する太平洋に面した市の南部には、「日本の渚百選」に選ばれた鵜原・守谷海岸などの砂浜や、南房総国定公園の指定を受けるリアス式海岸で形成されています。

本市は観光と漁業を基幹産業として、千葉県ではめずらしいリアス式海岸に街が形づくられています。勝浦といえば、初ガツオといわれるように、シーズンの漁獲高は日本一ですし、マグロなども相当の漁獲高を誇ります。また、勝浦灯台沖の深いところにキンメダイの巣があり、今の時期には脂ののったおいしいものがたくさん獲れます。

見所として、400年続く朝市があります。岐阜県の高山・石川県の輪島と共に日本三大朝市の一つと言われ、野菜、果物、花、魚介類のほか、工芸品など様々なものが揃っています。最近では、食によるまちおこしにも力を入れています。今年、青森県で行われたご当地グルメでまちおこしの祭典！B-1グランプリin十和田で勝浦タンタン麺がゴールドグランプリを獲得しました。週末になると、市内のお店に多くの客が訪れ、1時間待ちのお店もあります。

私は2011年7月に勝浦市長に就任しました。前市長が突然亡くなられたので、その後を引き継ぎました。その頃はちょうど東日本大震災が発生した直後でした。勝浦市も海岸線をかかえています



ので、津波をはじめとした防災対策を早急に講じなくてはいけないと考えまして、緊急避難路の整備、小中学校の耐震補強等を進めましたし、平成25年度から海岸に近い3保育所を休所し、高台の3保育所（中央、上野、総野）での保育を実施するなど対策に努めてきました。

勝浦市長となって改めて感じたことは、過疎化と少子高齢化という郡部の姿でした。都心から若者を呼び込むための生活の利便性の向上や雇用の場を増やすのが大きな課題です。

■国際武道大学の学生が賑わいを生む

（高橋） 今、勝浦市の現状とかかえる課題と取り組みについて概括的にお話がありました。漁業と観光のまちのお話があり、最近是全国的に朝市と雛祭りで有名になっており、知名度は増していると認識しています。

それでは、個別の課題として力を入れていることをお聞きます。

（市長） 政府主導で「まち・ひと・しごと創生総合戦略」づくりが進められています。本市でも10月にその総合戦略・人口ビジョンを策定しました。市制を施行した昭和33年の勝浦市の人口は、31,400人でしたが、これをピークに人口は減少を続けています。本年8月末現在の人口は19,235人ですが、今後も一層の人口減少と少子高齢化を見込んでいます。

市内には、武道・スポーツに関する教育・研究を中心とする私立の国際武道大学があり、その学生が約2,000人をしめ、まちを活気づけています。学生の中には、勝浦が好きなので住み続けたいが、就職先がないという話をよく聞きます。

勝浦市の総合戦略のメインは、雇用の創出と子育て支援です。実は、2001年に閉園となった行川アイランドの跡地を利用して、民間主導で宿泊型リゾート施設の開発が予定されています。このリゾートタウンが完

成すれば、雇用の場を200人程度確保することができ
ます。また、周辺地域には
道の駅がつくられています
が、勝浦市にはありません
ので、国道297号沿いに道
の駅を整備する方向で検討
しております。

生活利便施設の確保も欠
かせません。勝浦市には大
型スーパーマーケットが1
軒しかありません。住宅が

多く、商圈が成り立つ国道128号線沿いは、リア
ス式海岸の宿命でフラットな土地がほとんどあり
ません。市域全体で山地が3分の2を占めるなど、
平坦地が少ないので、施設をなかなかつくれませ
ん。勝浦市には、明治34年に勝浦水産補習学校と
して設立された県立勝浦若潮高校がありますが本
年4月に近隣の大原高校と統合したことにより、
2年後には空き校舎となってしまうため、この跡
地を使い、生活利便施設等の誘致に活用できない
か検討しています。

■漁港の整備に力を入れる

(高橋) 勝浦は新鮮な魚を食べられるとのイメ
ージがありますが市の中心的な産業である漁業に対
する施策をお聞かせください。

(市長) 漁業は勝浦の基幹的産業であり、昔か
ら力を入れています。施設・設備、たとえば冷凍
冷蔵庫や製氷庫の整備に関しては、市からも補助
金を出しています。また、魚市場の老朽化が進ん
でいます。今後の課題として、高度衛生管理型の
魚市場にリニューアルすることが必要であり、力
を入れていきたいと考えています。勝浦市には、
勝浦漁港を中心とする勝浦漁業協同組合と周辺の
7つの漁業協同組合が合併して作られた新勝浦市
漁業協同組合があります。将来は、この2つの組
合を合併し、更に力強い水産業を目指すことが必
要であり、現在取り組んでいるところです。



勝浦漁港

■築地市場との競合が県内市場の宿命

(高橋) 新しい市場には、観光客が来られるよ
うになるのですか。

(市長) そこまでの施設になるかどうかは、現
時点ではわかりません。ただ、勝浦市の実態とす
ると、近くに築地市場があり、また、東京を中心
としてカツオを始めとする魚需要があります。勝
浦で水揚げされた魚は築地市場を始め東京方面に
運んでいきます。これは東京の市場に近接する千
葉県の宿命です。私は、千葉県商工労働部に在籍
していたことがあります。その時に、地域経済活
性化のため、地域の基幹産業である農林水産業と
商業工業等との連携を進めよう取り組みました
が、なかなかうまくいきませんでした。千葉県の
農商工連携が進まないのは、先ほど申し上げたよ
うな点に原因があります。千葉県の農業産出額は
全国第3位、海面漁業漁獲量は全国第8位ですが、
獲れた一次産品はすぐに東京の太田市場や築地市
場へ持っていかれてしまいます。一次産品をイノ
ベーション（技術革新）で加工し、それを販売す
る必要がないからだと思います。

■県外船の入港が多く地元漁師の養成が難しい

(椎名) 勝浦若潮高校が2年後に廃校になると
いう話がありました。私たち自治労も、勝浦若潮
高校の存続を求めて署名活動等を取り組みました。
廃校というのは大変残念ですが、勝浦若潮高校が

行ってきた漁業後継者の養成という教育部門は残しておく必要があるのではないかと思います。

(市長) 先ほどもお話ししましたが、勝浦若潮高校は100年以上前に設立された勝浦水産補習学校が母体となっています。その昔は、学校の実習で船に乗って教育を行っていたと聞いておりますが、今は行っていません。現在では、アワビなどを養殖する栽培漁業実習場や缶詰を作る食品製造実習室で授業を行っています。大原高校と統合して、勝浦若潮高校が廃校となった後も、この実習場を残して、水産教育に活用していくこととなっています。

勝浦漁港に入ってくる漁船は、静岡、三重、高知、宮崎県などの県外のカツオ一本釣り船やマグロ延縄船などの外来漁船が8～9割を占め、県内第2位の水揚げ高となっています。それらの船は獲ったカツオ等を勝浦漁港に水揚げすると、港に用意してある水、食料、エサ、燃料などを船に積み込んで、すぐまた出港していきます。

一方、勝浦市には勝浦漁港以外に比較的小さな7つの漁港があり、地元の小型漁船によるカツオ・キンメダイ・マグロ類などの沿岸漁業とイセエビ・アワビ・サザエなどの磯根漁業が主として営まれています。

勝浦漁港に入ってくるのが県外の船ではなく、地元の勝浦や県内のものであったならば、勝浦の高校教育において漁船の乗組員や漁師を養成する

ことにもっと力を入れていたのではないかと思います。そのような事情が背景にあると考えられます。

■自然景観や食への期待で移住者が増える

(佐藤) 勝浦市を含む周辺の安房・夷隅地域の過疎化と少子高齢化のお話がありました。勝浦市は関東を中心とする県外からの転入者が多いですが、新たに勝浦市に住み始めた人たちの動機は何ですか。

(市長) 市内には、大型のリゾートタウンが2か所あります。そこを中心に県外から移り住んだ人が暮らしています。転入者も多いのですが、市外への転出者がそれを若干上回る状況です。移り住む人は、自然や景観の素晴らしさ、海の幸・山の幸に恵まれたおいしい食べ物、マリンスポーツや釣り等のレジャー・農業体験等の楽しみ、などを求めてくるかと思います。手に技術がある人がイタリアンレストランを開いている例もあります。

■元気な高齢者を作るため国際武道大と連携

(高橋) 雇用対策にも関係する少子高齢化対策について、お聞かせください。

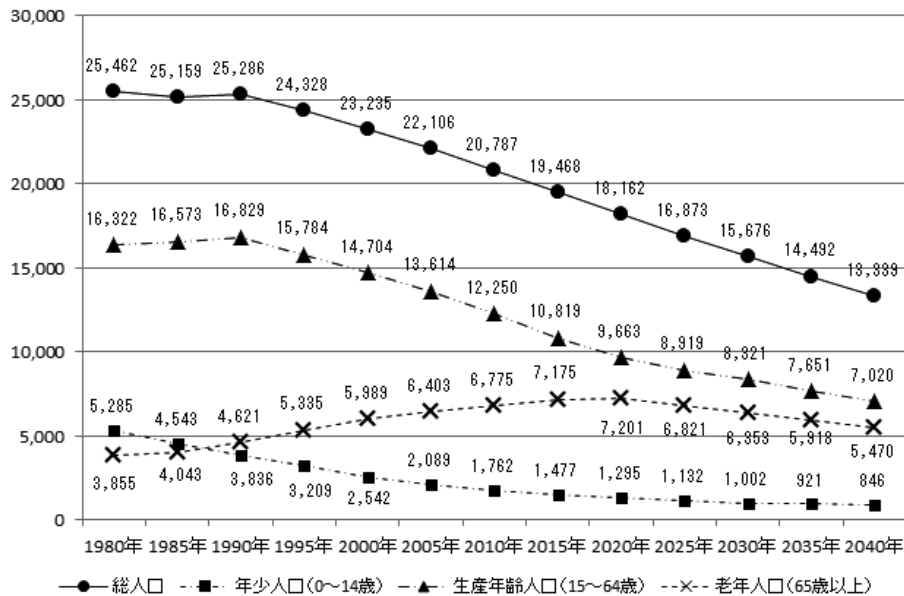
(市長) 冒頭、総人口は約19,300人で、今後一層の人口減少と少子高齢化を見込んでいるとお話ししました。3区分人口でいいますと、生産年齢人口(15～64歳)と年少人口(0～14歳)が減少傾向、老年人口(65歳以上)が増加傾向にあります。最近の推移をみますと、老年人口の上昇と生産年齢人口の減少が顕著になり始めています。全体として人口減少がみられるため、今後の少子高齢化の進展により、この傾向が更に拡大していくと思われます。

世帯数をみますと、ほぼ横ばいで推移していますが、人口が減少していますので、1世帯あたり人員が減少傾向にあります。また、核家族化の進行や単身世帯が増加傾向にあることを加えると、近年の世帯構成は多世代家族が少なく、単身



守谷海岸

図表1 勝浦市の人口推移



出典: 2010年までは国勢調査 2015年以降は社人研推計値

出所: 勝浦市人口ビジョン(平成27年10月)

や1世帯で構成された家族が増加傾向にあります。

少子化対策については、繰り返しになりますが、若者が勝浦市に安心して住み続けられるようにするために、雇用の確保と子育て支援、さらに生活の利便性の向上に力を注いでいくことが第一です。その上で、結婚し、子どもを産み育てる世代の希望がかなうような支援策を進めていきたいと考えています。

勝浦市の高齢化率は37%で、県内4番目の高さとなっています。一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が増加し、認知症や要介護など、社会的な支援を必要とする高齢者が年々増えています。こうした状況を踏まえ、高齢者が可能な限り、居宅において継続して日常生活を営むことができるよう、地域における高齢者を対象とする福祉サービスの供給体制の確保や高齢者が自らの知識や経験を活かし、地域社会を支え、活動できるような環境の整備を進めています。

勝浦市には、特別養護老人ホームが3施設あり、そのうち1施設は市営です。



利用者は市外の方もいますが、ほとんどが市内在住者です。また、過去の合併の経緯もあり、外科と内科を有する市営の診療所が1カ所あります。医療費も増えつづけており、国民健康保険の財政は年々きびしくなっています。

今後ますます人口減少と少子高齢化が進むことを考えると、病気の予防と健康の維持に力を入れざるを得ないと思います。健康寿命を平均寿命にできるだけ近づけること、表現が適切かどうかわかりませんが、ピンピンコロリが理想

です。国際武道大学には病気の予防と健康の維持の専門家がいますので、その先生方の協力を得て、40歳以上の方を対象に、運動習慣を定着することを目的に「健康ハツラツ教室」を開催しています。その他に、「食生活改善会」、「生活習慣病予防教室」、80歳以上で20本以上、自分の歯がある人を競う「8020シルバーよい歯のコンクール」等を行っています。

とにかく、元気な高齢者を増やすことです。男性で言えば、平均年齢が約80歳、健康寿命が約70歳で、この差の約10年の介護期間を短縮していくことが大切です。

■医療体制は不十分、今後充実が課題

(高橋) 勝浦市が含まれる二次保健医療圏の夷隅・長生・山武地域は、南北に約70kmにも及ぶ細長い地域で、かつ医療施設も地域的に偏っています。救急医療やかかりつけ医の体制などはどうなっていますか。

(市長) 勝浦市には、病院1カ所、診療所6カ所、歯科診療所7カ所が存在しています。救急医療の対応は、その多くが市内の塩田病院で行っています。三次救急医療については、隣の鴨川市にある亀田総合病院を利用しているのがほとんどです。車で行けば、20分くらいで病院に到着できます。

かかりつけ医の体制はまだ不十分です。生活習慣病などの疾病構造の変化に伴い、長期の療養を必要とする患者が増加していることから、身近で安心な医療体制の充実を図ることが必要となっています。

■住民主導の行政運営に努める

(高橋) 市政への住民参加についてどのようにお考えでしょうか

(市長) これはむずかしい課題です。なるべく市民の意見を市政に反映させるために、私は、市長に就任後、『市長への手紙』というのをはじめました。褒められることは滅多にありませんが、結構な数の手紙が届きます。そのような意見を大切にしています。

また、人口が2万人弱の市ですから、いろいろの場面で市民の皆さんと接する機会は多いです。老人クラブの集まりにも呼ばれますし、自治会組織の区長のみなさんともご一緒する機会が多いです。特に、区長のみなさんが地元の意見をいろいろと持ち寄ってくれますので、住民のみなさんとの密着感は強いです。

それから、なるべく住民主導で行政運営を進めたいと考えています。ちょうど1年前、本庁舎のすぐ脇の市営球場跡地に芸術文化交流センター(愛称はキュステ)をつくりました。この施設は、勝浦市を訪れる人を増やすことによって活気みな



リアス式海岸(鶴原理想郷)

ぎる新たなまちづくりを進めていくための拠点と位置付けられています。826席の大ホールをはじめ、和室・調理室・多目的室などがあり、公民館的な機能も有しています。ロビーが広く、階段もあり、そこでちょっとしたコンサートもできます。いろんなイベント・行事がたくさん入っています。住民主導の交流拠点として、活用されています。

■未来に素晴らしい自然を残したい

(高橋) 勝浦市の近未来の展望について、お伺いします。

(市長) 勝浦は風光明媚なところなので、この自然を残さなければいけない、素晴らしい自然を失うような都市化はすべきでないと考えています。生産年齢人口が減少傾向にありますので、税収がきびしくなっています。この状況は、勝浦市を含む夷隅郡市全体、隣の安房郡市全体も同様で、これからますます各自治体の財政はきびしさを増していきます。各自治体はいろいろな公共施設を持っていますが、これらを広域的に使用するとい

うことが必要となっていると思います。夷隅郡市だけを見ても、現在7万5千人の人口が25年後には5万人になると予測されています。これからは、公共施設を維持管理していくことがどの自治体も大変な時代になってきます。夷隅、安房の地域はそれぞれ特徴のあるすばらしい自然や公共施設などを持っていますので、それを活かしながら広域的に効率よく行政運営できたらよいと考えています。先ほど、芸術文化交流センターの話でしたが、周りの自治体のみなさんにどんどん使ってもらっています。

■国の「地方創生」以前から 地域活性化の取り組みを展開してきた

(椎名) 市長のお話を聞いて改めて感じたことは、どこの市町村も同じような施設をつくり、同じような施策を進める時代はすでに終わったと思います。限られた財源の中で、地域資源の有効活用など創意工夫をして独自性を発揮していくことが自治体行政に求められていますし、周辺自治体との広域的な協体制度も大切です。

その意味で、2014年末に地方創生に関する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定され、各自治体は2015年度中に地方版人口ビジョンと総合戦略を策定するとしています。特色ある施策を進めるという点では、あまりに策定期間が短すぎますが、いかがでしょうか。

(市長) 私たちは、以前から強い問題意識を持って自治体の中で地方創生の取り組みを進めてきました。今回、政府が地方創生を打ち出したことで刺激にはなると思います。いずれにしても、勝浦市総合計画に掲げていますが、自然環境、産業、伝統文化など豊富な地域資源を守り、活かしながら、次代を担う子どもたちの笑顔があふれ、市民が生き生きと働き、お年寄りが安心して暮らせる「海と緑と人がともに歩むまち“元気いっぱいかつうら”」の実現に向けて、着実に諸施策を前に進めていくことが重要

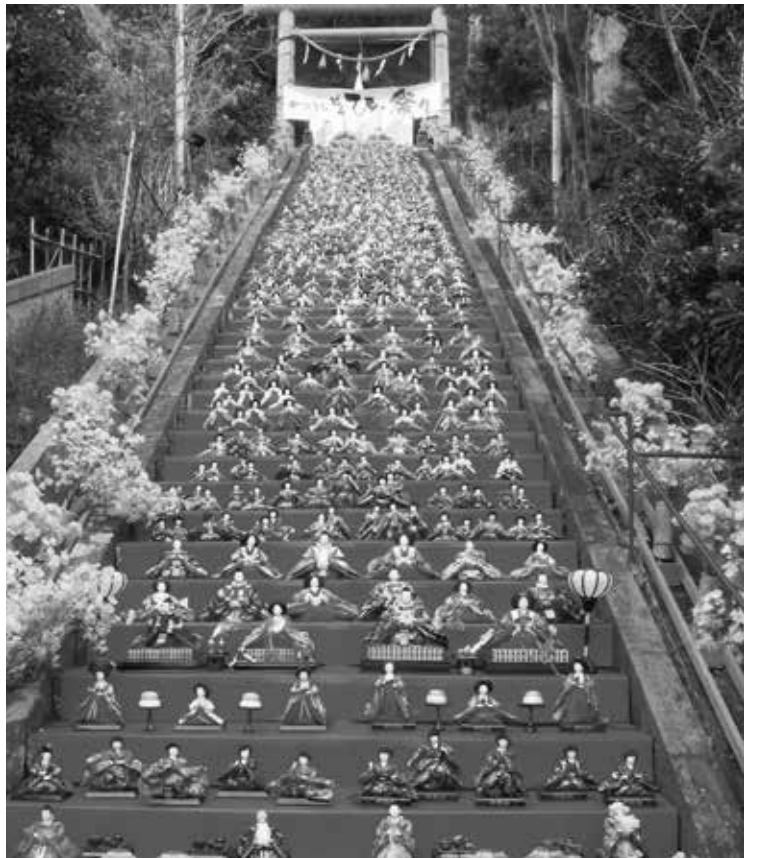
だと考えています。

■勝浦に是非お越し下さい

(高橋) 最後に、勝浦市のアピールをお願いします。

(市長) 風光明媚で、おいしい海の幸・山の幸に恵まれた勝浦にぜひお越しください。勝浦には、イベントがたくさんあります。2016年2月26日～3月6日にかけて、「かつうらビッグひな祭り」が開催されます。開催期間中、芸術文化交流センターをはじめ、市内各所に約3万体のひな人形が飾られます。市内の遠見岬（とみさき）神社では、60段の石段一面におよそ1,500体の人形が飾られ、夕暮れ時からライトアップされます。期間中は、子どもたちが稚児の衣装で統一したひな行列や盛りだくさんのイベントが行われます。一度、ご覧いただきたいと思います。

(高橋) 時間となりましたので、終わりにさせていただきます。本日は、貴重なお話をいただき、ありがとうございました。



遠見岬神社

(インタビューをもとに事務局で編集しました。)